

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的
☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

◆2月の発行は、14日号、21日号、28日号です。

今週の紙面

■2面 女性ニュース ■3面 読者のページ／まんが／俳句／詩 ■4・5面 学校給食の「完全無償化」を／女性 働く／ホットライン／食事情 ■6面 冬の乾燥肌対策／母の歴史 ■7面 新婦人の活動／主張／原発事故15年



埼玉・嵐山町 関幸子

選択的夫婦別姓 実現する政治へ

一般社団法人「あすには」代表理事 井田奈穂さんに聞く

昨年28年ぶりに選択的夫婦別姓法案が国会で審議入りしましたが、参議院選挙後の高市政権の樹立による大きな弊害がまた一つ可視化されたと感じています。

昨年12月、男女共同参画会議の専門調査会に第6次男女共同参画基本計画答申案が内閣府から提出されました。そこに旧姓の通称使用の法制化の検討」という文言が突如盛り込まれました。次の

苦しまぎれの旧姓使用法制化

選択的夫婦別姓の実現を求める多くの人たちの声をよそに、自民党と日本維新の会は昨年10月、旧姓の通称使用の法制化法案を26年の通常国会に提出し、成立を目指す旨と合意しました。「もう待てない」「明日には実現を」と、選択的夫婦別姓の法制化を求めて活動が続ける、一般社団法人「あすには」代表理事の井田奈穂さんに聞きました。

旧姓使用では解決しない

ただし、日本会議や神道

旧姓使用の法制化にはネガティブな要素しかあ

いだなほ 1975年奈良県生まれ、埼玉県育ち。IT企業の広報として働く傍ら2018年、選択的夫婦別姓の法制化を目指す当事者団体「選択的夫婦別姓・全国陳情アクション」を設立し、国会および地方議会へ法改正を訴える活動を開始。2023年に法人化し「あすには」を発足、誰もが自分らしく生きられるジェンダー平等社会の実現、選択的夫婦別姓の法制化をめざし、経済・法曹団体などとロビー活動を協働。2025年6月17日衆議院法務委員会で参考人に。「あすには」は、会員数1100人。ロビー活動、調査研究、企業支援、情報発信をはじめ学生向けインターンシップやイベントも開催。



政治連盟や統一協会といった宗教思想団体に支えられての政権だということも自身で分かっている。パフォーマンステとして、別姓は「家族の一体性が壊れる」「子どもに悪影響がある」と反対し、旧姓使用の拡大でいい、社会生活上困らないと言いつつ続けた。でも、それもいよいよ限界にきて、かなり強硬な手段に始めたという印象で

す。法制化まで言わないと、選択的夫婦別姓を求める声はつぶせないと考えるところまできたというのは、私たち「あすには」や新婦人のみなさんをはじめ、これまでの活動の成果ではないでしょうか。別姓には法的な根拠がないと使えないものであるという立証をしてきたわけです。



2025年6月、選択的夫婦別姓制度の実現を求める国会前アクションで発言する井田さん(右端)

りません。旧姓の法制化がどういうものかという定義を、大臣も官僚も国会でははっきり答えません。実際には、住民基本台帳を改正し、併記や単独使用を可能にする案が検討されていると言われているんですが、これは完全にダブルネーム社会を前提に、企業や自治体、社会全体のシステムをつくりかえる話です。そのシステム改修のために莫大な税金が使われて、企業も社会的にも大変なコストがかかるのに、選択的夫婦別姓を望む本人たちの苦痛は変わらないという、まさに世紀の愚策ですね。

首相、解散・総選挙へ

〈2面〉

〈2面〉

